

海外の話題

バレンタインデー、ハロウインの次は？

農林中央金庫 ニューヨーク支店長 杉田健一

秋が深まるにつれニューヨークでは、ハロウイン、感謝祭、クリスマスとイベントが続き、街はホリデーシーズンで華やかに彩られる季節となる。当地に駐在して3年目になるが、ニューヨークのマンハッタンには、年々盛り上がりを増している新たなホリデーシーズンイベントがある。それは、毎年12月中旬の週末に開催される「サンタコン (Santa Con)」である。

このイベント、サンタクロースのコスチュームで街をパレードし、街角のパブで仲間と過ごすというイベントである。サンタコン実行委員会のホームページ (SantaCon.info) によると、このイベントは1990年代半ばにサンフランシスコで始まり、現在では全米各地の他、世界主要都市で毎年12月に開催されている。また、キリスト教に関係の深いサンタクロースをイベント名に冠しているものの、宗教的な色彩は一切なく、単純に皆で集まって楽しむのが目的のイベントである。さらに、子供の参加を歓迎する一部のサンタコンを除けば、成人限定のイベントであるが、その理由は、通常はイベントに飲酒が組み込まれているためである。

昨年のニューヨークのイベントでは、参加者は事前にホームページで発表された何ヶ所かある集合場所に集合したうえで、街中を散策した。当日の昼過ぎに私が近所に買い物に出た時点では、マンハッタン市内はサンタの赤いコスチュームを着た参加者で溢れかえっており、ある種異常な光景であったことを覚えている。パレードに参加していたメンバーは、ほとんどが20歳代と思われる若者達であり、思い思いに街中を闊歩していた印象がある。コスチュームに関しても、単にサンタの帽子をかぶるだけの簡単なコスプレではなく、本格的にサンタの赤いユニフォームの上下を着ている人が多く、また、女性はスカート姿のサンタ等、工夫を凝らしたコスプレが目立っていた。また、一部の参加者が酒酔い状態で、昼から相当ハイテンションであった記憶もある。

実際のところ、サンタコンに対してはメディア等から一部批判的な論調がある。その理由は、参加者の一部が泥酔状態となったうえで問題行動を起こすケースが散見されるためである。私のアパートの近隣でも、イベント翌朝、歩道、公園の一部ではビールの空き瓶や食べ残しが散乱しているひどい状態の場所があった。サンタコン事務局でも、主として飲酒が要因となって、イベントの評判に悪影響が出ていることは認識しており、ホームページ上でも参加者は酔ってトラブルを起こさないように注意を呼びかけている。米国発祥のバレンタインデー、ハロウイン等のイベントが、日本に輸入され定着した歴史があることと、昨今の当地でのサンタコンの盛り上がりを考え合わせると、サンタコンは、数年後には東京でもハロウイン並みの盛り上がりを見せているかもしれない。

サンタコン実行委員会は、東京にも支部があり、昨年の東京開催は12月12日、今年の開催日は現時点で未定とのことである。ご参考までに、今年のニューヨークでのサンタコン開催は12月10日(土)である。